

平成 29 年 6 月 28 日

眼科に通院中の患者さんへ(臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

研究課題名 若年者裂孔原性網膜剥離の多施設後ろ向き観察研究

研究責任者 兵庫医科大学 眼科 五味文

(共同研究機関と施設責任者)

鹿児島大学	眼科	坂本泰二
筑波大学	眼科	岡本史樹
徳島大学	眼科	三田村佳典
福井大学	眼科	高村佳弘
市立札幌病院	眼科	今泉寛子
東京女子医大	眼科	北野滋彦
防衛医科大学	眼科	竹内大

研究の目的

裂孔原性網膜剥離とは、網膜の一部に裂孔（あな）が生じて、網膜がはがれてしまう病気です。裂孔原性網膜剥離は放置すると失明に至ることが多く、手術加療を必要とします。手術方法は、強膜内陥術と硝子体手術に大きく分かれますが、どちらも利点と欠点があります。元来、若年者の裂孔原性網膜剥離に対する手術は強膜内陥術が主体でしたが、近年の硝子体手術の進歩により、硝子体手術は以前よりも安全な手技になってきました。そこで、若年者の裂孔原性網膜剥離に対する治療法に関する最近の傾向を多施設で検討することが本研究の目的・意義になります。また合併症の発症頻度も調べ、今後の更なる治療技術の向上を目指します。

研究の方法

1 対象となる患者さん

平成 25 年 4 月 1 日から平成 28 年 8 月 31 日までに裂孔原性網膜剥離に対して当科にて初回強膜内陥術または初回硝子体手術を受けられた 50 歳未満の方で、6 カ月以上通院を継続された方。

2 利用するカルテ情報

年齢、術前視力、術前の網膜の状態、初回手術方法、初回復位の有無、再発の有無、合併症の有無、術後視力などを調査します。

個人情報の取り扱い

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

※上記の研究に診療情報を利用することをご了解いただけない場合は、ご連絡ください。

【お問い合わせ先】

北海道札幌市中央区北 11 条西 13 丁目
市立札幌病院眼科